



第 6 章

メディア報道



Dosen Jepang Mengajar di Trisma Puji Kreativitas Siswa SMAN 3 Denpasar

SMAN 3 Denpasar (Trisma) untuk kali pertama mendapat dosen dan mahasiswa tamu dari Jepang. Dia adalah Ryugo Oshima dan Satoko Baba, asisten profesor dari Chiba University, Prov. Chiba, Jepang.

Selama di Trisma, keduanya mengajak delapan mahasiswa S-1 dan S-2 Chiba untuk dilibatkan dalam kegiatan *Twin College Envoys Program* (atau program duta kerja sama dua universitas. Mereka sejak 31 Januari lalu belajar dan mengajar di sejumlah kelas di Trisma.

Selama seminggu mereka *sharing* budaya dan mengajar di kelas X dan XI dengan pengantar bahasa Inggris dan Jepang. Program ini direpons positif oleh siswa Trisma yang diajarkan oleh asisten profesor dan mahasiswa Jepang ini.

Di kelas, mereka mengajar sains dan kebudayaan Jepang. Karena misi mereka ke Bali juga untuk menyebarluaskan budaya dan tradisi Jepang.

Ryugo Oshima mengungkapkan, siswa Trisma ternyata selain pintar berbahasa Inggris juga pintar berbahasa Jepang. Siswa Trisma bahkan semangat menggunakan bahasa Inggris dalam berkomunikasi, sedangkan siswa SMA di Jepang mereka masih malu menggunakan bahasa Inggris sebagai alat komunikasi. Menurut Ryugo Oshima, hasil metode mengajar ini, akan dianalisis dan dieminarkan. Bagi Jepang, kata dia, pengalaman ini akan dijadikan masukan untuk *go international* di era global. Diharapkan siswa Jepang meniru siswa Trisma yang aktif berbahasa Inggris dan kuat budaya Balinya.

Selama berada di Trisma,

Ryugo Oshima dan kawan-kawan mengakui Trisma sudah menuju *go international*. Tinggal mengembangkan diri untuk menjalin kerja sama *sister school*. Bahkan siswa Trisma dikatakannya sangat aktif di kelas dibandingkan siswa di Jepang. Di Jepang siswa tahu tak tahu, mereka umumnya diam, namun anak-anak Trisma sangat aktif bertanya. Di samping itu, pertanyaannya tajam dan kritis, dengan ide cemerlang.

Ryugo Oshima mengatakan program ini dipayungi kerja sama Chiba dengan Unud. Trisma dipercayakan Unud untuk menjalankan kerja sama ini berupa pertukaran PBM dan kebudayaan.

Kepala SMAN 3 Denpasar Drs. Ketut Suyatira, M.Pd. mengungkapkan kerja sama ini akan dilanjutkan dengan kerja sama *sister school* dengan Jepang. Ia pun berterima kasih pada Unud yang mempercayakan Trisma sebagai aplikasi programnya sebagai duta Indonesia untuk menjaga citra pendidikan nasional. Bahkan Unud akan mengajak guru Trisma ke Chiba 14-19 Maret mendatang sebagai tindak lanjut dari program ini. Bagi Trisma, kata Ketut Suyatira, kedatangan dosen tamu ini memberi dampak ganda bagi siswa dan lembaga. Siswa bisa berkomunikasi dan berlatih dengan PBM berbahasa dengan *native speakers*, bagi lembaga makin meningkatnya iklim akademis. (ad4)



BERSAMA - Kasek Ketut Suyatira bersama dosen dan mahasiswa dari Chiba University, Jepang berfoto di depan sekolah.

国際的人材育成に補助 千葉大2事業に文科省

千葉大は12日、国際的な人材育成に取り組む大学の財政支援する文科省の「グローバル人材育成推進事業」と「大学の世界展開力強化事業」に同大の教育プログラムが採択されたと発表した。2016年度までに学部学生約1万人の3割以上を海外留学させることを目標としている。

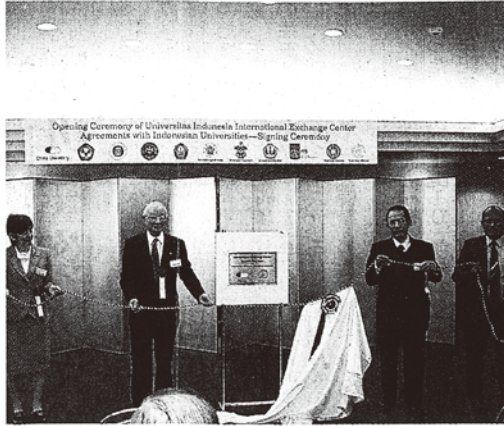
グローバル人材育成推進事業に採択されたのは、スキップワイス・プログラム。「スキップする」ように何回も海外に行き、楽しくグローバル人材を育成する（同大）ことを念頭に、留学経験者を増やす一方、18年には卒業時に半数の学生がTOEIC730点をクリアすることを目標とする。

また、3年半での卒業を可能にすることで秋入学の多い海外の大学へ留学しやすくなるほか、英語でのコミュニケーション力向上に取り組み、教養教育として「国際日本学」を設置し、日本の社会・文化について説明できるようにする。

一方、世界展開力強化事業に採択されたのは、ツイン型学生派遣プログラム。教育学研究科と他の専攻の学生がペアを組み、東南アジアの小中高校で日本語や日本文化、同大での研究内容を伝える。今年度は40人の参加を予定している。文科省の財政支援は最大5年間。同大は年間計3億2000万円の補助金を受

ける。同大と同じ申請の区分では、グローバル人材育成推進事業は申請41校のうち11校、世界展開力強化事業は申請17校のうち5校が採択された。同大は今後、20人程度の新部署を設置し、事業を推進する。

2012年10月13日（土曜日）朝刊 34面



インドネシア大学国際交流センターの除幕式
= 25日、稲毛区の千葉大学けやき会館

千葉大学は25日、稲毛区の同大西千葉キャンパスに、インドネシア大学（インドネシア共和国「ボック市」）との交流拠点となる同大国際交流センターを設置した。設置を契機に、同大を含むインドネシア国内の姉妹大学との教育、研究の交流を、さらに強化する方針。

千葉大とインドネシア大学は1997年に学術交流協定を締結。理学や工学、園芸学、医学といった分野で研究交流を進めてきた。昨年2月、インドネシア大学に千葉大の国際交流センターを設置。日本に留学する学生へのオリエンテーションなどを行っている。千葉大は他に、インドネシア国内の8大学と姉妹大学となっており、行政機関など4部局と部局間協定を締結している。

千葉大学内のインドネシア大学国際交流センターは

千葉大学

インドネシア大との交流促進 連携強化へセンター設置

千葉大学は25日、稲毛区の同大西千葉キャンパスに、インドネシア大学（インドネシア共和国「ボック市」）との交流拠点となる同大国際交流センターを設置した。設置を契機に、同大を含むインドネシア国内の姉妹大学との教育、研究の交流を、さらに強化する方針。

千葉



千葉日報WEB
http://www.chibanippo.co.jp
メールアドレス
c-nippo@chibanippo.co.jp

本

社

TEL 043(222)9215
FAX 043(224)7001

催しや公演などの情報が「さいまし」からお知らせください。

パソコンや関連資料、テレビ会議設備などを備え、教職員、学生の相互交流をさらに活発化させる狙いがある。開所式には同大学の関係者や、本年度新たに姉妹大学となったティボネゴロ大学など同国内の姉妹大学関係者、教育行政関係者など32人が出席した。

千葉大の斎藤康学長は「インドネシア大学だけでなく（インドネシアの）他の姉妹大学との交流拠点にしていきたい」とし、インドネシア大学のムハンマド・アニス副学長は「千葉大とインドネシア大学との連携は長い道のりがある。センターは、私たちの交流の拠点となる」と期待を込めた。

2012年10月26日（金曜日）日刊

日本経済新聞

東南アに学生派遣

千葉大 学校で研究内容紹介

千葉大学は大学院生を2人1組で東南アジアの国に送り込み、現地の小中高校で研究内容や日本文化を英語で紹介するプログラムを始める。まず、2013年2月に20組をインドネシアに派遣し、13年度からは対象国をタイやベトナムなどに広げる。成長著しい東南アジア各国に学生を送り込み、世界で通用する人材の育成を加速する。

千葉大大学院の教育学研究科とほかの研究科の学生を組ませる。研究分野は問わない。学生は渡航前に専任教員から英語や現地で話す内容の指導を受ける。渡航後は地元大学の学生寮に宿泊しながら小中高校に出向いて英語で授業をする。派遣先はすでに約20校を確保した。植物工場など千葉大の先端研究と合わせて日本語や日本文化を紹介する。滞在期間は2週間、1カ月の2種類。14年度からは6カ月の長期滞在も始める。2月に派遣する第1弾の40人の募集枠は「すでに埋まった」（千葉大学生部留学生課）という。

00万円の補助金を5年間受け取る。人件費やテレビ会議システムの設置、渡航費の一部補助などに充てる。

2012年10月27日（土曜日）朝刊 39面

Ⅱ 千葉大学Ⅱ

インドネシアで「SEND TWINCLE プログラムミーティング」

千葉大学は、今年度に大学の世界展開力強化事業として採択された「SENDプログラム」の実施にあたり、12月20日にインドネシアのウダヤナ大学を会場に、同大学、バンドン工科大学、ボゴール農科大学、ガジヤマダ大学、インドネシア大学の関係者及びインドネシア教育文化省関係者など約20名の参席のもと、「SEND TWINCLE プログラム

ミーティング」を開催した。オープニングでは、千葉大学教育学部山野副学部長の主催者挨拶に続き、ウダヤナ大学ブディアルサ副学長及び教育文化省サント海外交流局長の挨拶があった。



千葉大によるプログラムの趣旨説明



参加者による記念撮影(ウダヤナ大学にて)
引き続き開かれたミーティングでは、千葉大学側より、プログラムの趣旨について、科学技術教育を通じた国際交流を行うとともに、国際化した教育現場に対応できる教員の育成を目指したものであることが説明された。続いて、インドネシアの各大学に派遣される千葉大学学生の現地での活動内容、特に同プログラムの中心となる、現地の小・中・高校における派遣学生による授業の準備態勢などについて、1月からの事業実施に向けて詳細な打合せが行われ、学校での授業についてインドネシア側に期待されている内容を把握するとともに、プログラムを通じ各大学における学生同士の交流も深めていくことが合意された。ミーティング終了後には情報交換会も開催された。

平成25年1月21日(月曜日)文教ニュース

グローバル人材育成への取り組みを説明した千葉大学の「大学改革シンポジウム」28日、稲毛区



千葉大が大学改革シンポ

グローバル人材育成へ

グローバル人材の育成を目指す稲毛区の千葉大学（斎藤康学長）が28日、大学改革シンポジウムを開催した。海外留学を積極的に進めるなど、語学力だけでなく、国際理解に必要なさまざまな

まな知識を身に付け、世界で通用する人材を育てるのが目標。シンポジウムでは新年度から始まる「Skipwiseプログラム」を紹介し、今後の方策を説明した。

海外留学50%目指す

Skipwiseは①飛び入学・早期卒業で「時間を貯金」し複数回の留学を経験②日本・国際文化を学び「国際日本学」を習得③TOEIC730を目標値とした英語学習④国内外でのインターシップ、ボランティアなど実践活動の四つの柱を運用するプログラム。斎藤学長は「言葉だけでなくコミュニケーションをとれる人材を育てる必要がある」と、プログラムの意義を強調する。

既に同大で導入している飛び入学・早期卒業は、留年せずに半年、1年の留学や複数回の短期留学を可能にする。目標人数を設定して、徐々に増やし、将来

的に学生の半数が留学できる体制づくりを目指す。また海外への学生派遣ではASEAN諸国の中小高校で授業を行ったり、海外に出している日本企業でインターンを行うなどを企画する。

語学学習は昨年12月に英語でコミュニケーションを楽しむ「イングリッシュ・ラウンジ」がオープンしたほか、英語を使った授業などを展開していく。また2006年に設置した「公共学」でも世界各地の大学と連携して国際的教育を強化する。

シンポジウムでは同大OGの白土香織さん、鈴木志織さんが「わたしが留学で得たもの」と題し、海外での体験談を紹介して、現役学生にエールを送った。その後、2人に「宮崎放送大学副学長らを加えてパネルディスカッションを実施。千葉大が目指すグローバル人材の育成」をテーマに活発な議論を戦わせた。